

山口県から得られた日本海初記録のキテンハタ

荻本啓介¹・久志本鉄平¹

Author & Article Info

¹下関市立しものせき水族館（下関市）

KO: mogichuchu@gmail.com (corresponding author)

TK: kushimoto@kaikyokan.com

Received 30 May 2025

Revised 05 June 2025

Accepted 06 June 2025

Published 07 June 2025

DOI 10.34583/ichthy.56.0_4

Kesuke Ogimoto and Teppei Kushimoto. 2025. First Japan Sea record of *Epinephelus bleekeri* (Perciformes, Epinephelidae) from Yamaguchi Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 56: 4–7.

Abstract

A single specimen (362 mm standard length) of the Duskytail Grouper, *Epinephelus bleekeri* (Vaillant, 1878), was collected from off Hagi, Yamaguchi Prefecture, Japan. Although *E. bleekeri* has been sporadically reported off the Pacific coast from Kanagawa to Kagoshima prefectures, off the East China Sea coast of Kyushu, and the Nansei Islands in Japan, it has not been reported previously from the Japan Sea. We here report the first specimen-based record of *E. bleekeri* from the Japan Sea.

アカハタ属 *Epinephelus* Bloch, 1793 はハタ科 Epinephelidae ハタ亜科 Epinephelinae に属し（中村・本村, 2022）、日本近海から 45 種が知られる（本村, 2025）。日本海においては、2000 年代前半までアカハタ属魚類の報告はキジハタ *Epinephelus akaara* (Temminck and Schlegel, 1843)、アオハタ *Epinephelus awoara* (Temminck and Schlegel, 1843)、クエ *Epinephelus bruneus* Bloch, 1793、チャイロマルハタ *Epinephelus coioides* (Hamilton, 1822)、アカハタ *Epinephelus fasciatus* (Forsskål, 1775)、イヤゴハタ *Epinephelus poecilonotus* (Temminck and Schlegel, 1843) などそのほとんどが温帯性の種に限られていた（本間, 1995；魚津水族博物館, 1997；坂井, 1998；鈴木ほか, 2000；河野, 2017）。その後、2000 年代後半からは新たにコモンハタ *Epinephelus epistictus* (Temminck and Schlegel, 1843)、ホウセキハタ *Epinephelus japonicus* (Temminck and Schlegel, 1843) およびオオスジハタ *Epinephelus latifasciatus* (Temminck and Schlegel, 1843) など

温帯に主に分布する種に加え、主に熱帯・亜熱帯海域に分布するオオモンハタ *Epinephelus areolatus* (Forsskål, 1775)、ヤイトハタ *Epinephelus malabaricus* (Bloch and Schneider, 1801)、およびホウキハタ *Epinephelus morrhua* (Valenciennes, 1833) が記録されている（河野ほか, 2015, 2021；藤原ほか, 2018；園山ほか, 2020；河野, 2021）。

2023 年 10 月に山口県萩市沖の日本海からアカハタ属魚類のキテンハタ *Epinephelus bleekeri* (Vaillant, 1878) が 1 個体、釣りによって採集された。この標本は日本海における本種の初めての記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Randall and Heemstra (1991) にしたがった。体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い、計測値は標準体長に対する百分率 (%) で記載した。標準体長は体長または SL と表記した。生鮮時の体色は固定前に撮影された標本のカラー写真に基づく。標本の作製、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた記載標本は京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所 (FAKU) に保管されている。

Epinephelus bleekeri (Vaillant, 1878)

キテンハタ

(Fig. 1; Table 1)

標本 FAKU 153558, 362.0 mm SL, 山口県萩市見島北沖、水深 75 m, 釣り, 2023 年 10 月 15 日, 勝山 聡。

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は前後に伸長し、尾柄部は強く側扁する。体高は胴部で高く、尾部で低い。体背縁の輪郭は吻端から背鰭基底前端にかけて上昇し、その後緩やかに下降する。体腹縁の輪郭は下顎先端から臀鰭基底後端まで下方向へ緩やかに膨らんだ弧状でその後は緩やかに上昇する。吻はやや尖り、下顎は上顎よりもやや前方に突出する。口は端位で、主上顎骨後端は眼の中心の直下に達し、同骨の下部は平滑

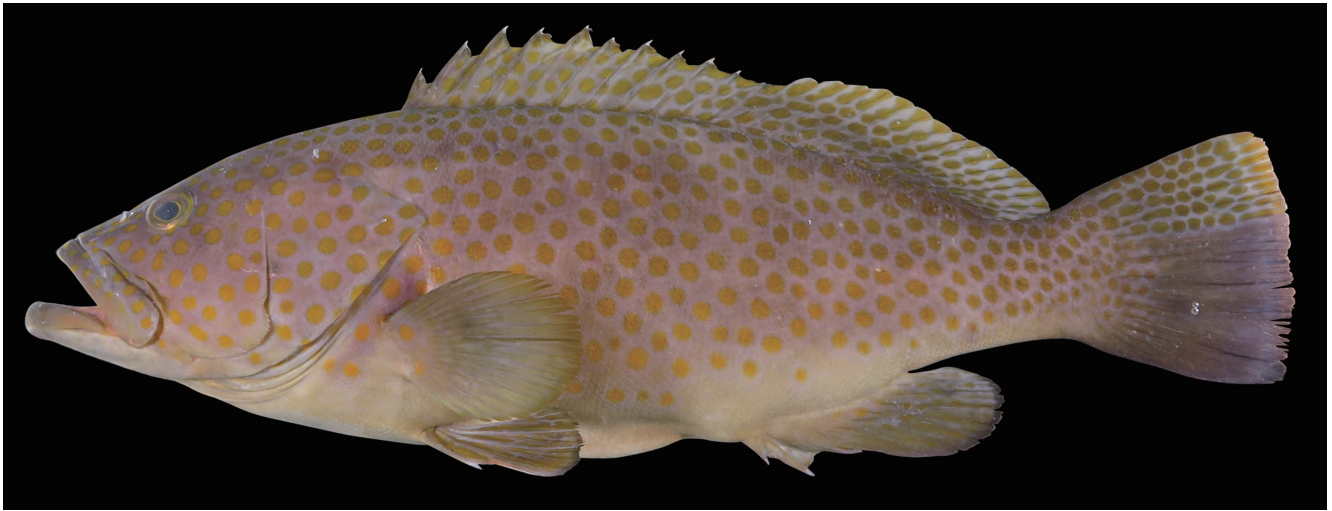


Fig. 1. Fresh specimen of *Epinephelus bleekeri* (FAKU 153558, 362.0 mm SL), captured off Hagi, Yamaguchi Prefecture, Japan.

である。鼻孔は2対で、前鼻孔と後鼻孔は近接し、前鼻孔後縁には皮弁がある。上顎、鋤骨、口蓋骨、および下顎には円錐形の歯が密生する。前鰓蓋骨の後縁に鋸歯があり、前鰓蓋骨下縁と主鰓蓋骨後縁は滑らかである。鱗は櫛鱗で、頭部と体はほぼ全体が鱗に覆われるが、胸鰭基部と両口唇は無鱗である。側線は1本かつ完全で、主鰓蓋骨上端後部から尾鰭基底にかけて体背縁と平行にはしる。胸鰭基底上端は背鰭第1棘直下に、胸鰭基底下端は主鰓蓋骨後端の直下に達する。胸鰭後縁は丸みを帯び、背鰭第7棘直下に位置する。背鰭の外縁は背鰭起部から背鰭第5棘にかけて緩やかに上昇し、そこから第11棘にかけて緩やかに下降、後に第5軟条まで緩やかに上昇した後、第17軟条にかけて緩やかに下降する。背鰭起部は主鰓蓋骨後端直上のやや前方に、背鰭基底後端は尾柄の中央部直上にそれぞれ位置する。腹鰭は胸位で腹鰭起部は背鰭第2棘直下に、畳んだ腹鰭の後端は背鰭第8棘直下に位置する。臀鰭起部は背鰭第2軟条直下に、臀鰭基底後端は背鰭第11軟条基部直下に位置する。臀鰭外縁は臀鰭起部から第3軟条にかけて下降し、その後円弧状に上昇する。尾鰭は截形を呈し、後縁は丸みを帯びる。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) 一体色は背方から上下中央部にかけて淡い赤色で、腹方で淡い褐色。黄橙色の斑紋が頭部、体側、背鰭、腹鰭、臀鰭、および尾柄に密に存在するが、下顎、胸鰭、胸部、腹部および尾柄部の腹面には斑紋がない。斑紋の大きさは瞳孔と同大もしくは小さく、背鰭上縁および尾鰭後端では2個以上の斑紋が連なる場合がある。背鰭、胸鰭、腹鰭、臀鰭、および尾鰭の背方約1/3の地色は暗黄色。尾鰭の下部約2/3は濃い灰色。

備考 山口県産の標本は背鰭が11棘17軟条、臀鰭が3棘8軟条、有孔側線鱗数が51、縦列鱗数が102、鰓耙数が10 + 16、腹面を除く体側、頭部、背鰭、尾鰭上部1/3に黄色またはオレンジ色の斑点が散在すること、および尾鰭下

部2/3が濃い灰色であることなどが、Randall and Heemstra (1991)や藤原ほか (2015) が示したキテンハタ *Epinephelus bleekeri* の特徴と一致したことから、本種と同定された。

キテンハタはインド・西太平洋に広く分布し (Randall and Heemstra, 1991)、日本国内におけるこれまでの標本に基づく記録は三重県紀宝町、和歌山県串本町、熊本県天草郡、甌島列島、鹿児島県指宿市、鹿児島県枕崎市、大隅諸島種子島および馬毛島、奄美諸島、および八重山諸島から (藤原ほか, 2015; Motomura and Hirazaki, 2017; 上城ほか, 2019; 脇本・國島, 2020; 清水, 2021; Motomura, 2023; Koreeda and Motomura, 2025; 笹木ほか, 2025; 吉田ほか, 2025)、画像あるいは信頼できる目視にもとづく記録は、神奈川県相模湾、三重県の熊野灘、愛媛県宇和海、高知県西部、宮崎県北部、鹿児島県の薩摩半島西岸、および屋久島 (藤原ほか, 2015; 日比野・長野, 2020; 岩坪ほか, 2022) から知られていた。したがって、山口県萩市産の本標本はキテンハタの日本海からの初記録となる。

キテンハタは主に熱帯・亜熱帯に分布し、日本における分布の中心は種子島周辺海域とされている (藤原ほか, 2015)。熱帯・亜熱帯域に分布する魚類が日本海に出現する理由として、黒潮の支流である対馬海流によって黒潮流域から輸送されることが挙げられる (小林ほか, 2006; 河野ほか, 2011)。対馬海流の勢力は夏から晩秋にかけて最も発達することが知られ (沖山, 1974; 西村, 1981; 長沼, 2000)、本研究で記録されたキテンハタは秋～晩秋にあたる10月に採集されている。さらに、本標本が得られた山口県の見島は、萩市から約45 km 沖に位置し、同島沖合は対馬海流の流路に直接あたるため海流の影響を強く受ける (藤原ほか, 2018)。以上のことから、キテンハタの日本海における本記録は、成魚個体の対馬海流による輸送を経た偶来とみなすのが妥当である。上記の状況を考慮すると、現段階ではキテンハタが日本海において定着・再生

産を行っている可能性は非常に低いと考えられる。一方、本標本の体長は 362.0 mm であり、キテンハタの成熟サイズである体長 360 mm (Kandula et al., 2015) を超えていることから、本種が今後、日本海において定着・再生産し得る可能性は否定できない。本種を含む熱帯・亜熱帯性魚類の日本海における分布・生息状況をより深く理解するためには、今後も周辺海域における漁獲物調査などを継続して行い、再現性の担保された情報を蓄積する必要がある。

Table 1. Counts and measurements (expressed as percentage of standard length) of *Epinephelus bleekeri* from off Hagi, Yamaguchi Prefecture, Japan.

	FAKU 153558
Standard length (SL; mm)	362.0
Counts	
Dorsal-fin rays	XI, 17
Anal-fin rays	III, 8
Pectoral-fin rays	18
Pelvic-fin rays	I, 5
Lateral-line scales	51
Longitudinal scale rows	102
Upper gill rakers	10
Lower gill rakers	16
Total gill rakers	26
Measurements (% SL)	
Caudal-fin length	20.4
Head length	37.8
Post-orbital length	23.2
Body depth	31.9
Body width	16.6
Snout length	10.8
Upper-jaw length	16.2
Orbit diameter	5.5
Interorbital length	6.6
Caudal-peduncle length	19.9
Caudal-peduncle depth	12.4
Pre-dorsal-fin length	34.7
Pre-anal-fin length	69.6
Pre-pelvic-fin length	40.9
Dorsal-fin base length	67.0
Anal-fin base length	16.8
1st dorsal-fin spine length	5.3
2nd dorsal-fin spine length	9.2
3rd dorsal-fin spine length	11.8
4th dorsal-fin spine length	12.1
5th dorsal-fin spine length	12.3
6th dorsal-fin spine length	11.7
7th dorsal-fin spine length	10.8
8th dorsal-fin spine length	10.8
9th dorsal-fin spine length	10.5
10th dorsal-fin spine length	10.4
11th dorsal-fin spine length	10.2
Longest dorsal-fin spine length	12.3
1st anal-fin spine length	5.4
2nd anal-fin spine length	6.7
3rd anal-fin spine length	8.0
Longest anal-fin spine length	8.0
Pelvic-fin spine length	7.9
Pelvic-fin length	14.5
Pectoral-fin length	18.7

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、勝山 聡氏および船戸 剛氏には貴重な標本の採集に際してご尽力いただいた。山口県長門土木建築事務所の河野光久氏には有益なアドバイスを頂いた。京都大学フィールド科学教育研究センターの甲斐嘉晃氏には標本を登録・管理して頂いた。Ichthy 編集委員の藤原恭司氏と匿名の査読者には原稿に対して適切なアドバイスを頂いた。合同会社アイケフ (www.aiceph.org) の Ian Gleadall 氏には英文校閲にてご助力をいただいた。下関市立しものせき水族館の立川利幸館長、石橋将行氏をはじめ同館スタッフ諸氏には研究活動を支援していただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。

引用文献

- 藤原恭司・高山真由美・桜井 雄・本村浩之. 2015. 日本におけるハタ科魚類キテンハタ *Epinephelus bleekeri* の記録と分布状況. タクサ, 39: 40–46.
- 藤原恭司・田上英明・毛利雅彦・鎌野 忠・秦 一浩・岡田朔平・永井節子・本村浩之. 2018. 山口県響灘および見島から採集された日本海初記録を含む魚類. 水産大学校研究報告, 66: 47–80.
- 日比野友亮・長野 淳. 2020. 三重県熊野灘で水揚げされた熱帯・亜熱帯性魚類. ニッチェ・ライフ, 7: 28–33.
- 本間義治. 1995. 新潟県魚類目録補訂 (XIII). UO, 43: 11–28.
- 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之. 2022. 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 329 pp.
- Kandula, S., K. V. L. Shrikanya and V. A. Iswarya Deepti. 2015. Species diversity and some aspects of reproductive biology and life history of groupers (Pisces: Serranidae: Epinephelinae) off the central eastern coast of India. Marine Biology Research, 11: 18–33.
- 河野光久. 2017. 山口県日本海沿岸域におけるマハタ属魚類の漁獲動向. 山口県水産研究センター研究報告, 14: 23–26.
- 河野光久. 2021. 写真に基づく日本海初記録のホウキハタとオオモンハタ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 8: 11–14.
- 河野光久・安部 謙・長濱達章. 2021. 写真に基づくヤイトハタとチャイロマルハタの日本海からの記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 6: 4–8.
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫. 2011. 山口県日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告, 9: 1–27.
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫・園山貴之・荻本啓介・國森拓也. 2015. 2010–2013 年の山口県日本海海域における海洋生物に関する特記の現象. 山口県水産研究センター研究報告, 12: 1–21.
- 小林知吉・堀 成夫・土井啓行・河野光久. 2006. 山口県の日本海沿岸域における海洋生物に関する特記の現象. 山口県水産研究センター研究報告, 4: 19–56.
- Koreeda, R. and H. Motomura. 2025. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of the Koshiki Islands and adjacent waters, Kagoshima, southern Japan, with 353 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 21: 1–119.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 31. [URL](https://www.nippon-suisan.org/) (20 May 2025)
- 長沼光亮. 2000. 生物の生息環境としての日本海. 日本海区水産研究所研究報告, 50: 1–42.

- 中村潤平・本村浩之. 2022. ハタ科 Serranidae とされていた日本産各種の帰属, および高次分類群に適用する標準和名の検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 26–43.
- 西村三郎. 1981. 地球の海と生命 海洋生物地理学序説. 海鳴社, 東京. 284 pp.
- 沖山宗雄. 1974. 日本海々域の生物学的特性 — 生物相の特徴 —, pp. 42–55. 日本水産学会 (編) 対馬暖流 — 海洋 構造と漁業. 恒星社厚生閣, 東京.
- Randall, J. E. and P. C. Heemstra. 1991. Revision of Indo-pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. *Indo-Pacific Fishes*, 20: 1–332.
- 坂井恵一. 1998. のと海洋ふれあいセンターに収蔵されている魚類標本. のと海洋ふれあいセンター研究報告, 4: 45–61.
- 笹木大地・武藤 滉・中村潤平・日比野友亮・木村清志. 2025. 三重県におけるハタ科魚類相. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55: 30–48.
- 清水 稔. 2021. 熊本県で採集されたキテンハタ. 熊本博物館館報, 34: 67–68.
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田嘉隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152.
- 鈴木寿之・細川正富・波戸岡清峰. 2000. 兵庫県産魚類標本目録 鈴木寿之魚類コレクション兵庫県産編. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 32 集. 大阪市立自然史博物館, 大阪. 143 pp.
- 上城拓也・平田堅固・本村浩之. 2019. 薩摩半島南端から得られた標本に基づく九州初記録のキテンハタ. *Nature of Kagoshima*, 45: 295–296.
- 魚津水族博物館. 1997. 富山湾産魚類リストおよび富山湾産希少魚類の採集記録. 79 + vii pp.
- 脇本総志・國島大河. 2020. 和歌山県串本町から得られた標本に基づく本州初記録のキテンハタ *Epinephelus bleekeri*. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 4: 22–25.
- 吉田卓史・伊東正英・山田守彦・本村浩之. 2025. 薩摩半島西岸と南岸から得られた初記録の魚類 62 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 53: 23–39.